



わ
お
し
ま
ら

うだつのあがるまち

うだつ「卯建」は、二階の壁面から突き出した漆喰い塗りの袖壁で、火よけ壁とも呼ばれ防火の役目をしていました。

江戸時代、裕福な商家はこの「うだつ」をあげた立派な家を競って造りました。ことわざ辞典にいつまでもくずくずして一向に出世できないことを「うだつがあがらぬ」と記しており、この語源になったのではないかと思われます。即ち、このような立派なうだつのある家を建てる甲斐性がないことから「うだつが上がらない」と言われるようになったと考えられます。もう一つの説は、うだつ(椀)は二階の大屋根にいつも頭を押さえつけられているところから「うだつが上がらない」という言葉ができたとも言われています。



うだつの町並み
四国のまほろば 美馬市



鳥衰 (鳥ぶすま)
 鬼瓦に鳥がとまらないように、また糞をかけないようにするため、止まる場所としてつけられた。



鳥衰には火事よけとして水に関係した「舟の帆」や「水の波」をつけているものがある。



寄棟造卯建

北



起り(3くり)屋根

カネ天小路
 現在はガレージとなっているが、かつてはこの場所にかネ天の屋号をもつ天野家が醤油の製造卸を盛大に営んでいたことから名がついたといわれる。



妻入屋根

年代による建て方の特徴	
江戸時代の家	明治時代の家
・虫籠窓をもつ中二階	・格子造りで二階の軒が高い
・吊り上げ式のしとみ戸	
・寄棟型うだつ	

藍商「紅屋」
 明治中期

鉛屋—藍商—蘭問屋
 弘化5年
 1848年

味噌・醤油製造卸
 「新舟波屋」
 明治5年
 1872年

味噌・醤油卸米屋
 「カネ天」
 明治13年
 1880年

蘭商
 明治初期



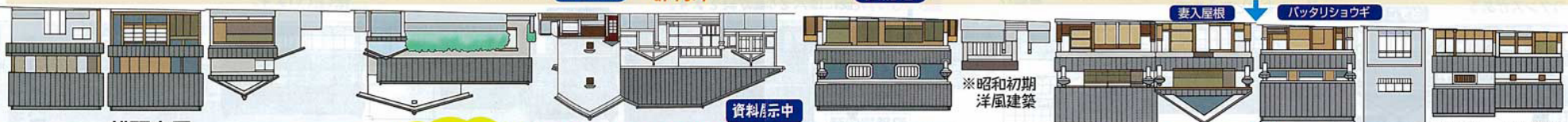
起り屋根
 壁土が多く入れているため

妻入屋根

カネ天小路

西

東



※二階の屋根と、うだつの間にはすき間があり、うだつは防火の役目としてよりは、飾りを施したうだつとなっています。

通り抜けOK
 ※船板壁

※二階の大屋根との間にすき間がなく本来の防火を目的とした重厚なうだつです。

案内所 トイレ
 ※無料レンタサイクルあります

TEL (自動電話)

資料展示中

船頭小屋
 瀬戸物屋
 明治後半

蘭問屋「丸十」

観光ガイドのお申し込みはこちらへ

美馬市観光文化資料館
 TEL.0883-53-8599
 美馬市観光協会

虫籠窓

※昭和初期洋風建築

平田家

藍染め・みやげ物
 藍屋敷おくむら監町店

明治時代の家
 江戸時代の家

呉服屋
 明治前半

蘭商

大正時代
 傘屋「山木」
 大正9年頃
 1920年

明治時代
 旅館「木五」
 明治
 安政2年
 1855年

江戸時代

醤油屋 家具屋
 1850年頃 「木住屋」

もとは旅館



自働電話 (美馬市観光文化資料館前公衆電話)
 日本の公衆電話ボックスで2番目に古い形のを再現しています。標記が「(自働)電話」となっているのは決して間違いではなく、理由は定かではありませんが、当初から「自動」ではなく「自働」の文字が使用されていたと伝えられています。

美馬市観光文化資料館
 この地に脇町税務署が明治32年に建築され、その後、昭和27年に税務署が移転し、昭和63年まで法務局、そして美馬市観光文化資料館として現在に至っています。構造は鉄筋コンクリート造りですが、外観は税務署時代の擬洋風のデザインで町並みに違和感無く溶け込んでいます。第十二世将棋名人小野五平に関する資料や、脇町の今昔を伝える貴重な資料を多数展示しています。また、この美馬市観光文化資料館内に観光協会・脇町うだつの町並ボランティアガイド連結会があり、美馬市の観光情報の発信や、観光案内の予約受付も行っていますので、お気軽にお立ち寄り下さい。



南町の町家の立地

旧吉野川



障子(床)
 折り畳み式になっていて、夏の夕方、ここに座って将棋をさしたり、夕涼みを楽しみながら世間話をしていました。

南



吉野川を往来していた帆掛け船の船板を使った壁です。当時こゝまで吉野川の水が来ていたそうで、水に浸かっていた板を使用していた為、腐らず残っています。

脇町うだつの町並みと舞中島

舞中島は天正10年(1582年)の洪水により三谷と分断されて、川の中島となりました。吉野川の洪水との闘いの歴史がよく残る集落です。藍の集散地として栄えた脇町を支えた、藍の一大生産地で、この地に残る見事な高石垣住宅が藍生産の繁栄を物語っています。



無料
駐車場

うだつの町並み

道の駅
藍ランド
うだつ

脇町劇場

ショッピングセンター
パルシー

脇町潜水橋

竹林

吉野川

竹林

護岸礫群

舞中島

高石垣住宅

高石垣

公園

光泉寺の高地蔵

アインシュタイン友情の碑

高石垣住宅



至つるぎ町
東みよし町
三好市

三谷

国道192号

明連川

井
伊射奈美神社
(十二所神社)

至吉野川市
徳島市



県道鳴門池田線

至阿波市

脇町劇場 (オデオン座 ※山田洋次監督、西田敏行主演「虹をつかむ男」の舞台となる)



脇町劇場は1934(昭和9)年に芝居小屋として建てられ、歌舞伎や浪曲などが催され、戦後は映画館になり、地域の憩いの場として親しまれました。間口が14.4m、奥行27mの二階建てで、花道、うずら座敷、太夫座等の設備が整っていました。舞台には直径約6mの回り舞台があり四国では愛媛県の内子座、香川県の琴平金丸座に現存しています。その後映画の斜陽化と建物の老朽化により平成7年に閉館し、取り壊される予定でした。が、松竹映画「虹をつかむ男」(山田洋次監督)の舞台になり、一躍脚光を浴び、文化的価値が見直され、指定文化財として平成11年5月に、昭和初期の創建時の姿に修復されました。



●美馬市観光協会 監修：脇町うだつの町並みボランティアガイド連絡会

〒779-3610 徳島県美馬市脇町大字脇町92 美馬市観光文化資料館内/TEL.0883-53-8599 <http://www.mima-kankou.jp/>